Osaka University Knowledge Archive

Title	懐徳堂師儒、三宅・中井二家系圖の訂正
Author(s)	羽倉, 敬尚
Citation	懐徳. 1972, 42, p. 1-4
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/90495
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

Osaka University

懷德堂師儒、三宅・中井二家系圖の訂正

羽倉敬尚

懷德堂（再興）記念會設立（大正六年）の五十周年記念の特輯號である、本誌昭和四十一年第三十七號に學堂師儒四家の系圖を寄稿しておいたが、その後、その中の三宅・中井二家の分について、例へば兵庫縣赤穗市北野中（もとの村名）興福寺の中井玄端墓文の如き新資料を發見し、ここに前稿を補足訂正する。どうか前稿ご所持の方のご對照をいただけば幸甚である。

懷德堂師儒四家系圖（「懷德」誌第三十七號）、補訂

一、三宅家

萬年を伊之助の弟とし緝明の兄の地位にくり上げる（以上）

二、中井家

發見資料、赤穗市北野中、興福寺所在、中井玄端墓文（次に書下しとす）

中井君玄端甫の墓

君は姓は中井、諱は昌直、字は玄端。父の養仙は原姓は井上にて、嘗て中井竹庵の養う所となり、その女を以て配

す。君（玄端）はその生む處である。玄端は正保二乙酉年八月二十六日、廣島に生れ、父と共に脇坂侯に仕えたが、寶永三丙戌年、官を辭して大阪に住み、享保元丙申年、赤穂に移り、同五庚子年七月十八日卒す年七十六。脇坂氏を娶り五男あり、長は懐之、次（二男）は信之、次（三男）は廣之にて柳生氏の後と爲る、次（四男）は誠之、次（五男）は文之である。二女あり、長女は既に嫁ぎ次女は未だ嫁がず、本月二十一日、北野中村の興福寺に葬り、後に恭貞とおくり名す、享保五庚子年冬十二月、孝子懐之建つ（以上）

右の文により、後年、竹山撰む處の父誠之（甃庵）の墓文、卽ち大阪上本町誓願寺の文（浪速双書第十卷訪碑錄におさむ）及び、それを取材の西村天囚子の「懐徳堂考」記述の中井家系記（同考、十三頁及び三一頁）更に龍野藩醫中井家傳うる家系等の史實の傍證確認を得、次の如く前稿の竹庵以下を補足訂正す

○竹庵

名養堅、號如齊また延齊

初め九州福岡藩主黑田筑前守長政、その子筑前守忠之二代に仕えたが、辭して廣島に移り醫を業とし更に大阪に出で、萬治三年十月十日終る、おくり名、教雲。大阪誓願寺に葬り、以後歷代葬所となす。

妻、某女、名於採菊（おさきか）寛文四、七、八終る。

○養仙

竹庵養子、實は廣島人井上氏男、妻は竹庵の女」名昌倫、養父に從ひ大阪に出で、初め醫業を開き、寛文中、醫を以て大阪城代職の次役、定番在勤の信濃ノ國飯田藩主、脇坂中務少輔（號如水）安政に仕え、二百五十石の食祿を受け、主侯、任滿ち歸藩の際、飯田に從ひ行き、寛文十二年五月、主侯の播磨龍野に移封に從ひ、その地に移り、寶永三年、仕えを辭し、子玄端を伴ひ大阪に出で、正德元、八、三終る、好生とおくり名す。葬所、父、竹庵と同じ。

玄端

名は昌直、正保二乙酉年八、二六廣島に生る、母は竹庵の女、初め父職を繼ぎ寶永三年五月、父辭任により共に大阪にて醫を業とし、享保元年、四男誠之を大阪に置きて家を嗣がせ、五男、文之號常庵を伴ひ歸國して赤穗に住み、同五年七月十八日、赤穗に終る、七十六歳恭貞とおくり名し、興福寺に葬る。妻は龍野藩持筒頭脇坂彌次兵衞宗薫の女、男五女二を生み延享二年二月八日終る、九十一歳。

玄意、おくり名、良貞。

貞享三年、龍野藩醫を繼ぎ、男子なく甥信之（伯元）に相續せしむ。

長男
懷之、養元、老に至らず、おくり名懿貞

次男
信之、おくり名鳳岡

伯元、叔父玄意を受け龍野藩醫を繼ぎ、六世にて、故、武一郎醫博に至る、武一郎外孫雅行相續、横濱市菊名住

三男
廣之

龍野藩家老柳生太右衞門廣次の嗣、通名武助。廣之の男、同藩儒藤江熊陽の嗣となり致遠と稱す、その裔孫は故陸軍大將藤江惠輔

四男
誠之、忠藏、大阪に止り懷德堂創設に盡す、寶暦八終る、六十六歳

五男
文之、字季禮、號常庵、おくり名良簡

元祿八年生れ、壯時、京に出で古方大醫後藤艮山に學ぶ（竹山撰文の父甃庵墓文）享保元年、父玄端を護って播州赤穗に移り同五年、父を送り同十九甲寅年五月十三日、赤穗に終る、四十歳、子なし、墓は龍野市大手町淨土宗如來寺の持地、同市揖西町小神山の龍野中井家墓地に葬る（以上、父玄端碑文及び常庵沒年墓地等は赤穗興福寺三好住職及び龍野藩史研究室、石原元吉氏報、石原氏は雜誌「大阪手帖」に「中井竹山と龍野」の連載寄稿ありと）